

第5回復興道路会議～岩手県～を開催

～復興道路等を生かした地域振興策などについて活発な議論～

道路建設課

平成27年6月1日（月）、第5回復興道路会議を国と県の共催で開催しました。

復興道路会議は、国の復興のリーディングプロジェクトとして、かつてないスピードで整備が進められている復興道路・復興支援道路について、事業を迅速かつ円滑に進めるため、国、県、沿線市町村、民間経済団体、報道機関の構成員が情報共有するとともに、必要に応じた連絡調整を行うもので、震災後の平成23年11月の第1回開催から今回で5回目の開催となりました。

会議では、事業進捗状況や「見える化」の取組状況の報告のほか、今回から、復興道路等の全線開通を見据え、県と市町村から、復興道路等の整備効果や復興道路等を生かした地域振興策などの事例発表をし、その後意見交換を行いました。

県、市町村の発表では、市町村の復興まちづくり計画に復興道路等が組み込まれていること、復興道路等の早期の全線開通を見込み、沿線地域への相次ぐ企業立地や工場の増設、宮古港のフェリー定期航路開設に向けた動きなど、すでに企業活動が活発化していることなどから、今後も整備スピードを落とすことなく、早期の全線開通が必要不可欠であることが述べられました。

意見交換では、過去の東北縦貫自動車道の開通により、岩手県が首都圏等の野菜の一大産地になったことなども触れられ、復興道路等を生かした地域振興策には、これまでの延長線ではない全く違う考え方で検討も必要になること、大幅な時間短縮による水産業の新たな生鮮物流の可能性や、道の駅を核とした地域振興の可能性が広がること等について、活発な意見が交わされました。

また、28年度以降の復興予算のあり方で一部地方負担の方針が示されたことに対しては、復興道路等のもとより復興事業全体の遅れを懸念する意見や、国の事業化の経緯や復興のリーディングプロジェクトの位置付けなどから、最後まで国が責任を持って進めるべきとの意見等、一部地方負担に反対する意見が相次ぎました。



川崎茂信 東北地方整備局道路部長 挨拶



連見有敏 岩手県県土整備部長 挨拶



高峯聡一郎 宮古市都市整備部長 発表



会議の開催状況

その後の6月24日（水）の政府復興推進会議で決定した平成28年度以降の復興事業のあり方においては、三陸沿岸道路は引き続き国の全額負担での実施となった一方、2つの横断道路については地方負担の対象となり、大変残念な結果となりました。新たな負担は小さい額ではありませんが、引き続き国や関係機関と連携し、一日も早い全線開通に向けて取り組んでいきます。